

Art in Hospital

患者と医療従事者に優しい病院環境をつくる

医療・介護の一貫したサービスを提供

①② 堀切中央病院 (東京都葛飾区)



夏祭りのときには駐車場におみこしが入り、患者や家族の楽しみの一つになっている

最寄り駅の京成線「堀切菖蒲園駅」の名が示しているように、堀切は1930年代までは菖蒲園が集まる行楽地だった。その地に堀切中央病院が開院されたのは1955年である。

この60年間、同病院は地域の医療ニーズに応じて医療機能を変えてきた。戦後の残滓が残る開院当初は結核病棟を主体としていたが、地域住民が高齢化する現在は急性期病院の受け皿と在宅療養者の急性増悪時の受け入れを行っている。

機能強化のため、昨年7月、管理棟を建て替え、新館としてオープンした。4階建てで、1階はリハビ

リ室、2階は病室、3～4階に医局や会議室などを配置した。

増床により、本館と併せて一般病床58床、医療療養病棟55床、介護療養病棟12床の計125床となった。これらの病床を連動させ、より最適な医療・介護サービスを提供している。

1階のリハビリ室には、理学療法士9人、作業療法士6人、言語聴覚士3人が常駐し、オーダーメイド・個別疾患別リハビリを提供。さらには100分程度の短時間かつ医療密度の高い(介護予防)個別通所リハビリも行っている。



患者は明るく清潔な空間で入浴できる



女性職員向けにおしゃれな環境を提供しているパウダールーム



在宅への早期復帰を支援しているリハビリ室



高級家具が並ぶ職員の憩いの場



患者、職員のための環境づくりを進める
澤田京子理事長



敷地内の「リハビリ公園」には藤棚や「つくばい」も設けられている

また、外来診療では認知症早期発見のための「物忘れ外来」、在宅診療では訪問診療や在宅看取りも実施。訪問看護ステーションや居宅介護支援事業所も併設しており、きめ細かいサポート体制を取っている。

4階に設けられた職員および地域住民や医療機関に開放された憩いの場には、澤田京子理事長が選んだイタリアの「カシーナ」ブランドの高級家具が並ぶ。

高級ホテルの一室にいるかのような心地良さが、なぜイタリア製高級家具なのか。

澤田理事長は「職員に気持ち良く働いてもらうためです。また、高級品だと大切に扱おうという気持ちになり、物を、ひいては患者さんを大切にできる気持ちにつながります。それが、この病院のブランドづくりにつながっていくと思います」と言う。

敷地内には、24時間開園している「すこやか保育園」も設けられており、看護師の福利厚生に一役買っている。

同病院では今後、地域全体での連携を深め、地域の中核病院として患者のステージに合った医療・介護を提供できる体制を整えていく。